

あとがき

事務局を担当することになつて最初の通信を編集している最中に、有賀先生の訃報が大淵英雄君によつてもたらされた。

先生とは本年の五月に三田の天ぶら屋で慶應大学における先生の関係者、大学院生が集まつて「有賀先生を囲む会」を開いた際にお目にかゝつたのが最後となつてしまつた。先生と「白樺派」とは關係あることはうかがつていたが、その折に先生と柳宗悦氏との出あいと、その影響についての先生のお話をうかゞうと、改めて有賀農村社会学の根底に大正デモクラシーと人道主義が脈打つてゐることが知られた。植民地主義に反対し、朝鮮民族の独自の文化の価値を見出された先生の「朝鮮の陶磁器はあたたかいよ」という言葉は、先生のあたたかい心をそのまま映し出しているよう思われた。先生の御冥福を祈る次第である。

(一二月二十日 高山記)